

増山守正編輯
東京名勝画詞
下巻

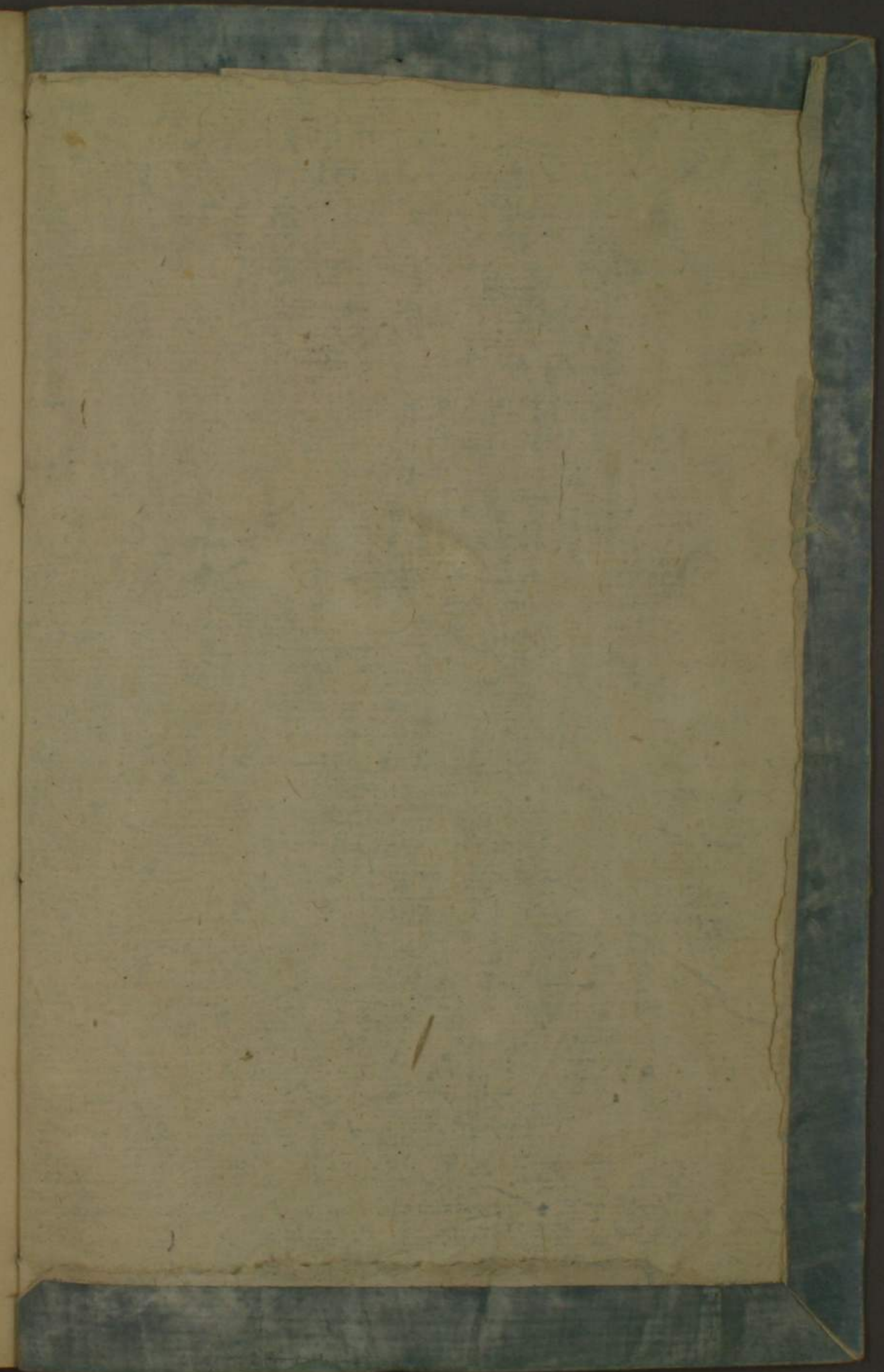
ル 3
3480
2



1000

卷之四
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

1000



門 3
號 3480
卷 2

東京名勝畫詞下卷



兩國橋

丹波

增山守正

編輯

千百燈迷暮靄開。滿紅絲肉響
如雷。舟中別買遊人笑。插鼓狂
歌作劇來。東京 依田學海
絃歌裊々暮潮間。游舫載春去
亦還。涼吹來兮簾可捲。玉山相
對玉人顏。全 小澤綠莊
爪彈低唱夜依稀。正是水樓風
滿衣。酒影涼燈疎柳外。分明數
盡妓船歸。全 栗本匏菴
長橋架二洲。游艇斷中流。烟火
半空散。滿江蜃氣樓。全 福田鳴鶯

下卷

曲欄臨水々鱗々。影印波心月一輪。玉笛瑤
琴拋却去。追涼惟有撲螢人。東京 森田福陽
金龍影淡晚烟消。兩國橋頭涼氣饒。映水紅
燈波萬頃。一江無處不浮橈。山城 西川義延
二州橋上露華鏡。月到天心熱氣消。蒙竹哀
絲船漸去。夜深江景水迢々。全上

吾せわをてん答るあきききし月夜
一輝一々女渡の島を門をみ全 靜正
是かふる夜の外や柿らけ全 楚山
暁の百ふらぬ川 香全 花生
橋原一帯くおもすくぬ程 西来 稲雄
人夢の春うらよる昔をト長門 梅宿

早稲田大學圖書館
第 34.3.4 雙
藏 書

兩國橋穹架彩虹。江天晴夜水連空。山城 安倉石庭
賞歎烟火奇工戲。聲響千星爛々中。

釣鐘をえしちりてや居るを山城喜松

涼しきよ夏あけのや橋の上を 中居

大それたの根をりてさくらをさす 津松

燕つらつたれぬものをさくらを火々 高頂

正和源や 墨ふきの煙の老り下野 芥子

兩國橋頭夜景新。炎威消盡慰吟神。寒生不
及榮花事。携妓頽然帶醉人。山城 木村昇齋

橋上爭觀可奈何。天花一炬勢嵯峨。萬人驚
見金龍閃。倏忽星光散入波。全上

無數提燈一々同。橋南橋北又西東。就中烟
火生機巧。人在彩星光耀中。全上

兩岸華燈映水新。一船々外幾遊人。清風颯
々忘炎熱。即是豁然存此身。全上

兩國橋邊試夜遊。涼風吹送到輕舟。吟情是
此臨觀豁。好景堪歡入寸眸。全上

橋跨二州長掛虹。步虛人得小神通。世間暑熱無
憑所。頭上涼蟾脚下風。武藏 嵩 古香
船燈樓燈紅射紅。歌管蕞處熱成鼓。清輝惟有橋
心月。傳万家涼一笛風。全上

遊て遊ぶ

去生の

かゝ

ふさ

井のみ

ふら

編者

遊人填咽二州邊。臨水画樓相映鮮。晴雷捲起晴天
雨。流火碎爲流水煙。龍蹠夜雲光爛燦。星欺曉露影
嬋娟。須臾技罷舟皆散。橋北橋南涼氣傳。編者

清きやん柱まの柱の上 全上

一和をいって柱まははるりト 全上

柱のほ記の場をの都ふ 全上

萬丈橫空白板橋。西賓東客日誼翼。睡鷗泛々忘浮
世。遊艇飄々趁落潮。墨水涵雲千里遠。筑山映浪一
峯遙。可知總武分離處。兩國名稱是美標。全上

向島百舌園

七州の

名所

あり

あり

あり

落代

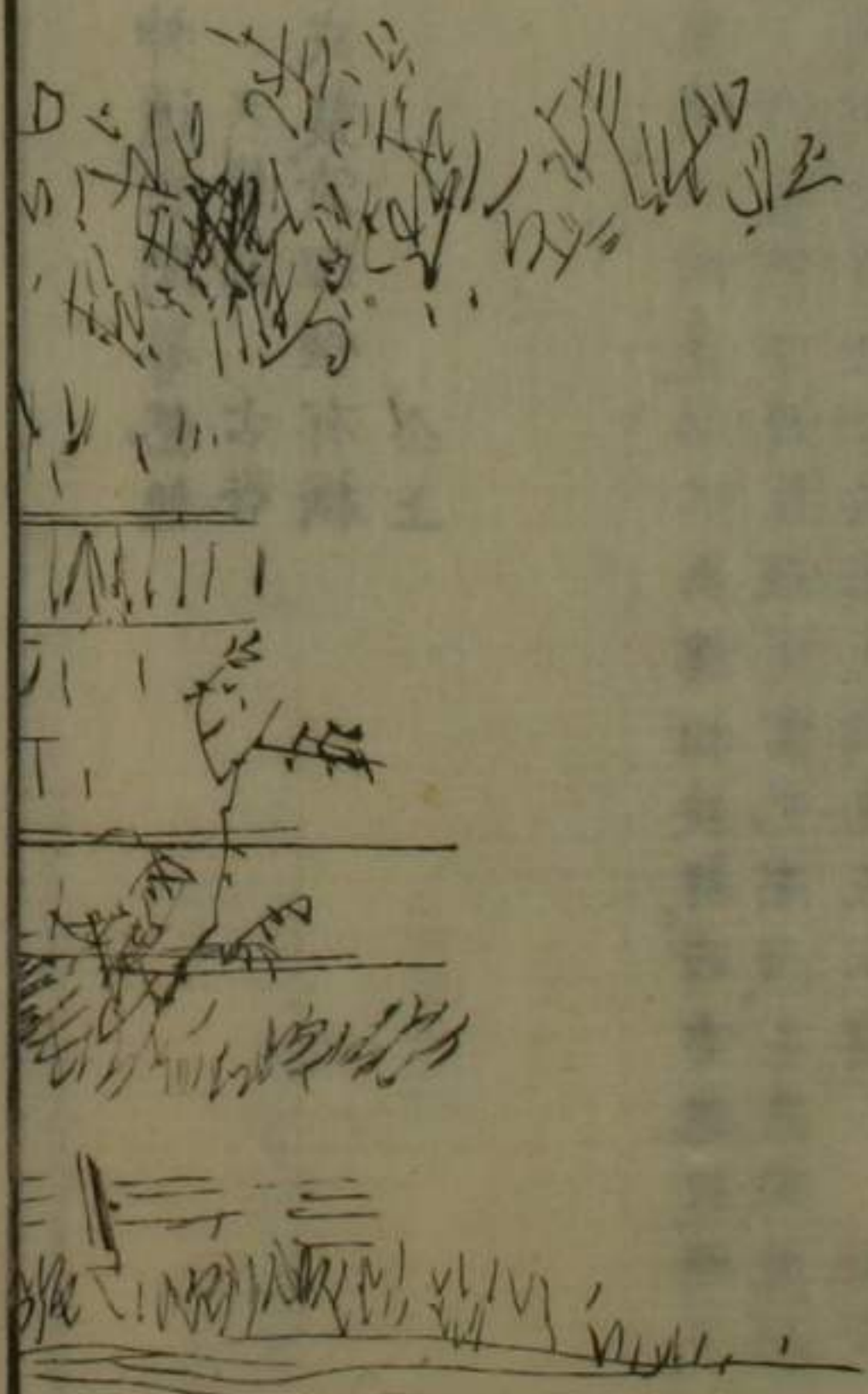
あり

あり

あり

長老寺有仲

節過星夕露叢稠。紫葉黃葩種々幽。
知是七襄天女手。織成錦繡滿園秋。
東京 三島中洲



聞新鶯憶
向島梅園

簞韻難調
出谷身偏

憐窗外一

聲新憑卿

欲問梅花

信向島何

園已占春

東京
植村龍山



櫻湖

あまの月をよみかたし人
なほこころぬ園のさすまき
秋の聖の
子料る茶

七種花開秋一籬。涼風滿袂月華遲。
思詩人倚欄干坐。愛聽幽叢聒々兒。
栗本乾庵

七言や一つ取せて秋の叫 全羅

陶子書く秋意のふりまきつな 全 尋香

七言水元のつゝ色や去路系 全 孟水

某居や夢した枯の気移ふ 月史

朔よりや枯枝の音のさし不眠 全 愛海

あらし跡のささるる梅の香 宇山

枯牙月猫と尋る女うね 全 覺言

秋の聖の
子料る茶

嘆く去の

さかしの

香の

片山淳吉

氷

肌影

冷萬株

梅春信無

違忽報來莫

怪清香先已動

百花園裏百花魁

山城

渚 方舟

まじしその口もわけて暖枯枝 全 不取

さくら花身をけぬるぬ梅の香 全 完信

人しはは若くし川日さるる梅香 全 梅羊

さし暖はこわれもせばは花の香 全 全上

種小を秋のささるるささるる 全 全上

枯葉の口もわけて暖枯枝 全 不取

さくら花身をけぬるぬ梅の香 全 完信

人しはは若くし川日さるる梅香 全 梅羊

さし暖はこわれもせばは花の香 全 全上

種小を秋のささるるささるる 全 全上

秋の色と

一頁小

園の

あや小春

編者

家計風流

養性真千

紅萬紫四

時句桃源

仙境何求

遠不若斯

園世外春

編者

七言や

秋の

孫角の

後錦

編者

七言小

あつまる

秋や

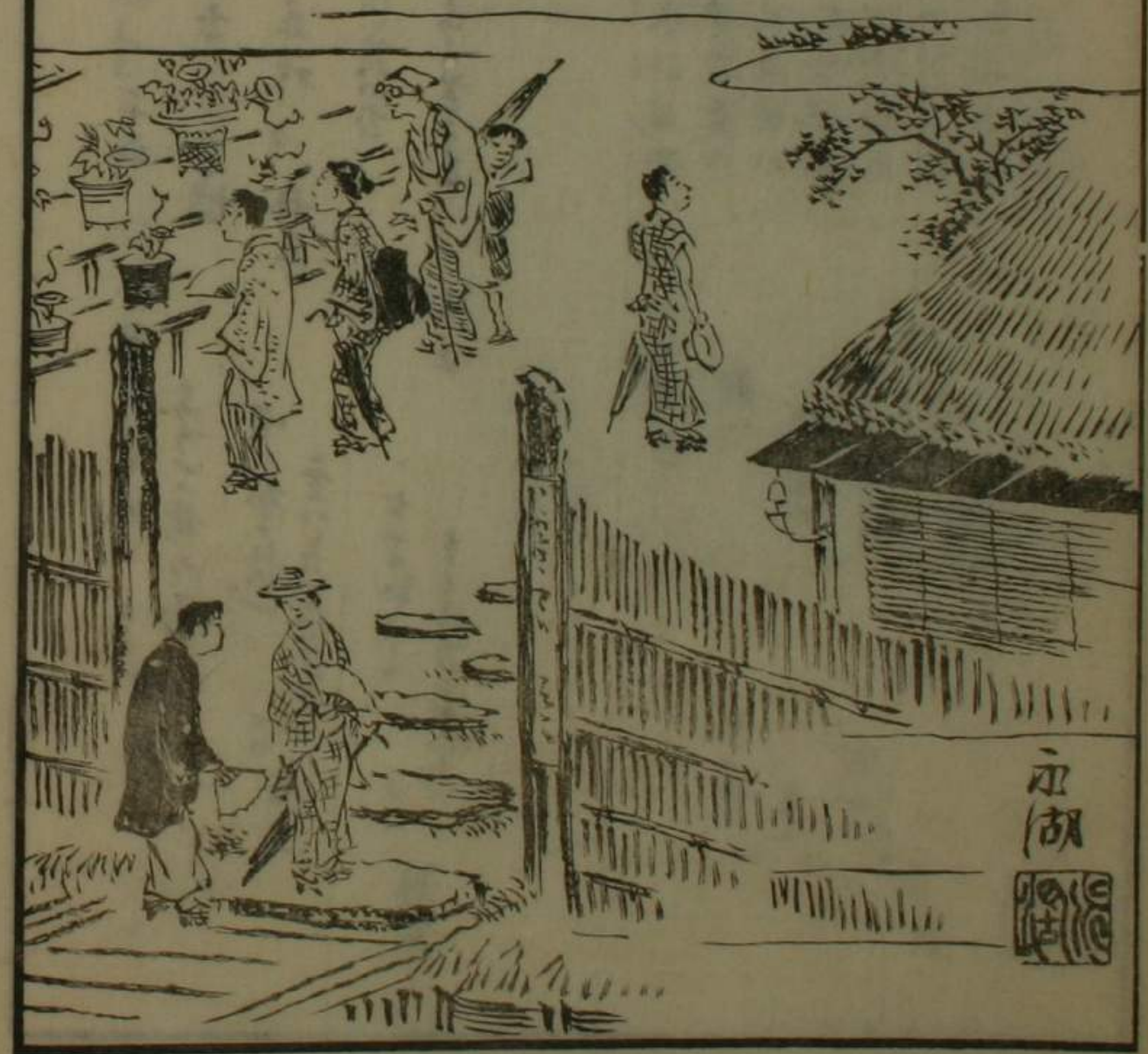
春

編者

八谷村
露

置露の
う母し
船名正
片氣
けこる
ひみの
ほの
朝
れ吉
志老寺有仲

變到立秋々
色加霏々涼



永胡

霧拂衣斜開
人亦自有忙
事破曉馳車
看碧花
東京
浦生聚亭

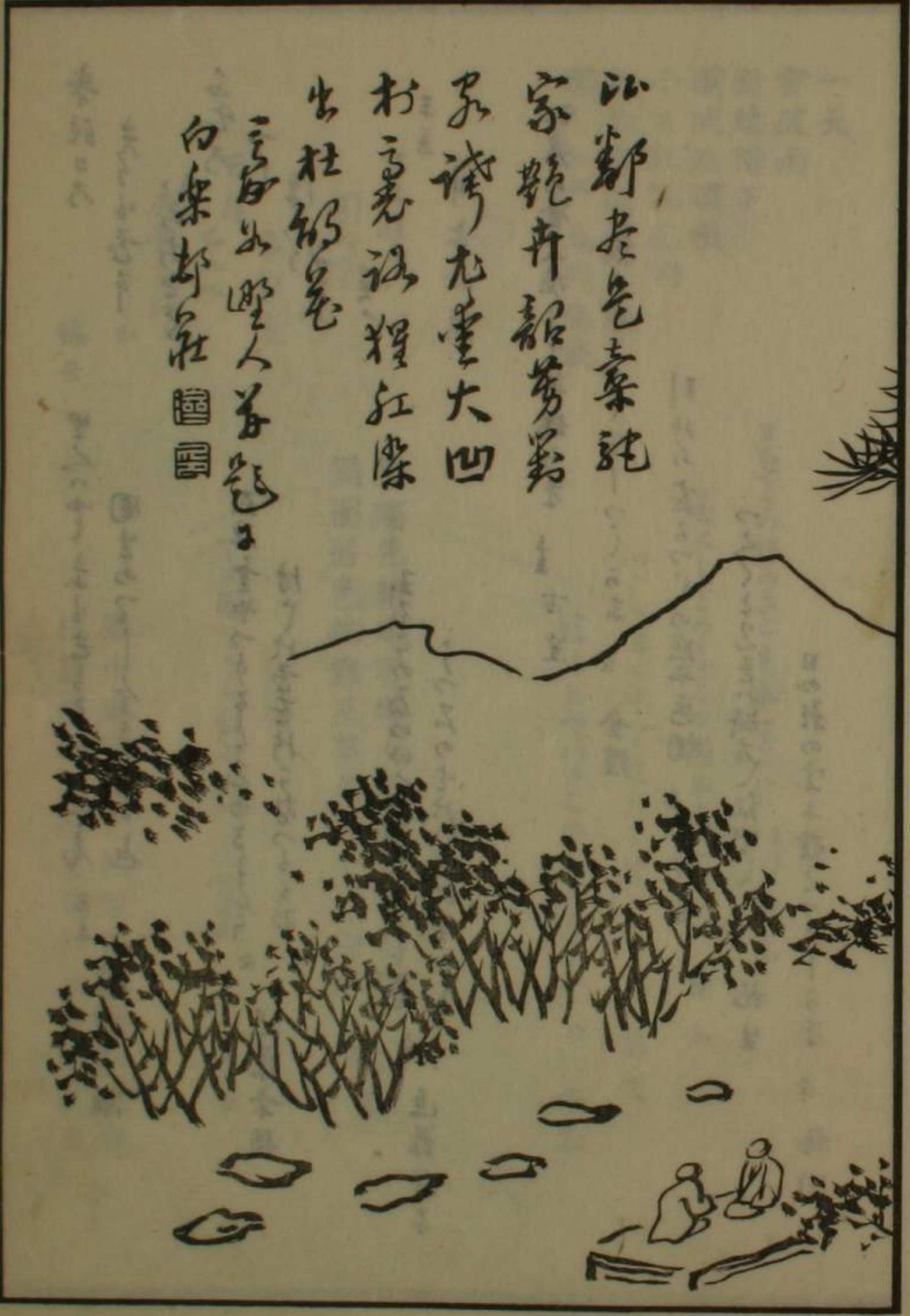
あさ
うらや
人も
ねらひま
かきわ
花社
まーこの
大久保一翁



大久保村
躑躅花



比鄰共是素純
家範并韶芳對
家諺尤重大四
村言老語輝紅
出杜鵑花
三白出野人
白樂村社



孝終り乃

孝りも亦平

いらあさく

多知乃

つし

海より

つし

つし

玉京

井上心直

里んやまもあさくくらん

園生のつし今さうも也

梅村宣雄

五粒重やつりやんえあさく

はじれををけう勢つらう

近藤幸殖

玉京の乃のゆくふれつし

つし石のまはいらに咲く

近藤桂子

切岸の雲み履して躑躅うな

古空

榻子よこしく咲つしうな

引けらあさくつしの照や鬼網

つしくとえまの眠たし紅つし

日の影の字よ程くつしうな

梅園

一天

雲破雨

新晴階下

織成紅繡横

今日杜鵑花灼

灼昨宵聽得杜鵑

聲山城鳥岡陽城

日をりのほあまこまはをつし

静正

美くしとのふえてはぬまつし

楚山

つし空く中を後けり笠日傘

高羅

陰る日やつしのうの屋の雪

千敏

大之保の

園のつし

つし

玉京

つし

未常

つし

編者

躑躅花開燦有輝。人忘歸去鳥忘飛。満園好色描難及。莫是天公詫染緋。

編者

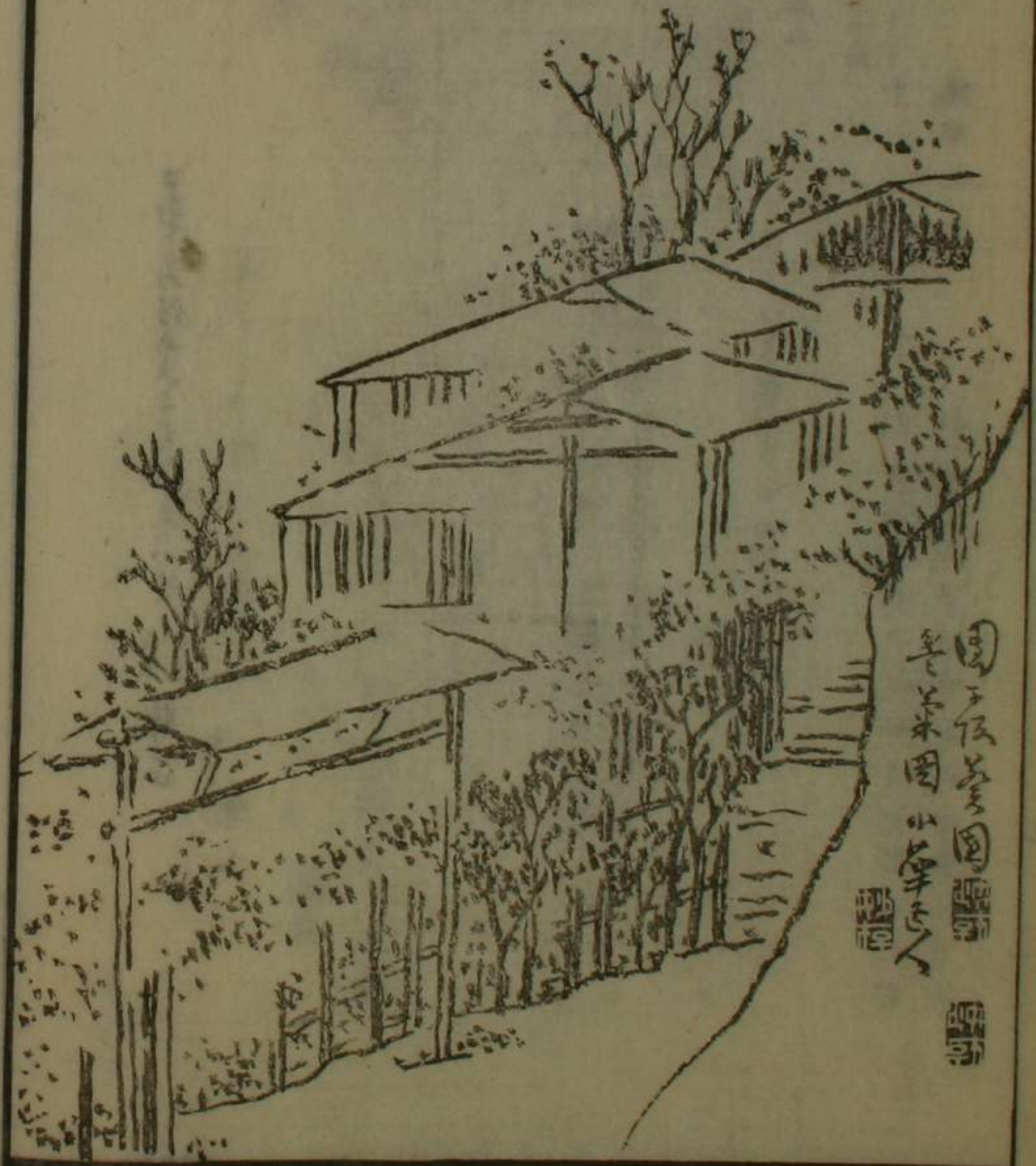
一と園のつし紅あつし

全上

園中躑躅樹尤肥。爛漫花開似旭輝。但訝逍遙遊歩裏。飛紅欲點染裳衣。

全上

園子菊



園子菊
 冬菜園
 小野山
 全上

遊園之上

中兒大之花子

九らふり

きふら

華もまはる

かりまの

大久保一

來摘何堪泛酒觴。坐聞幽馥品
 奇芳。平生疎懶今初悔。要乞君家
 養菊方。
 我愛籬下菊。露氣浥冷香。一點無俗韻。
 十分占秋香。天質自如此。故意非傲霜。

東京 小野湖山

全上



こうれめりまらすくろの造り菊 全 梅村宣雅

花の香やふ菜上のみぢら梅子 全 乙雅

五文字一色も見飽き菊の花 全 康高

遠山の孫も思つてまきの花 全 藤松

曇る日もなつすぬ葉の匂ひ 全 梅峽

うしろ日の焼くまじや菊の花 全 太年

名ふまゝ一睡も居らば菊の花 全 千畝

世に甲斐のする菊の花 全 石丈

咲たはれに際ふりし菊の花 全 宇山

日の初もとむる白葉菊の花 全 桂花

こゝろ菊も踏の杖やまきの花 全 甘香

離邊

數種菊

繚乱散秋

霜韻致自然

尚西風吹冷香

東京 林 淡霞

さゆりのかたちをまわりの菊 全 大久保忠保

秋はふらふらをまわりの菊 全

うさぎの形とあつて菊の花 全 小元敏功

それめつしきその菊 全

白菊もまふらけきと黄き 全 片山清玄

黄金の色の花ふさけ 全

○

白菊ふかゆる朝日の匂ひ 全 編者

忘葉やまふ匂ひのある 全 全上

枯てさへみぢらぬ菊の花 全 全上

園の香はまら菊の花 全 全上

白菊や氷りさうまの肌 全 全上

霜満屋山銀色浮。園中芳菊麗

容優。不期春日競榮顯。領得淵

明遣愛秋。 編者

空も菊もあつたわさ 全 全上

梅の色は菊の花 全



卧
翁
梅

煙雨催花春意濃。古閑曉訪一枝筇。
老根屈曲蟠如睡。滿樹香雲沒臥龍。

東京
上杉敬齋

半石老真
真

霏微芳草雨。淺水村路長。行至梅花國。境靜雲有香。野梅與閑客。真識宜寒鄉。
東京 藤寄秋溟

偃蹇江莊久寄蹤。探春人喚眾花宗。流芳千歲非吾事。祗當終身作臥龍。

老根蟠地爪牙開。好以臥龍呼野梅。我是詞人劉昭烈。春風三顧此花來。
采本宛菴 三島中洲

臥老梅や 況て見まはせまの木のこゝろ
ふはらばねのたまたまこゝろ 臥龍梅 全
味移る日の美ひ香や 梅の香 全
香早りふる 梅のけしき 全
老石

蟠幹如龍臥。梅花第一莊。縱無三顧客。雪裏自芬芳。
福田鳴鶴

幾樹梅花一樣同。模糊靄裏奪天功。堪歡是此乘遊興。人在嬌歌一曲中。
山城 安藤經次

欲問春光携杖行。梅花幾樹眼先清。薰風吹送多幽趣。聽得流鶯第一聲。
全上

無端欲見臥龍梅。今日堪歡入眼來。神慮如何斯好景。幽香散處氣佳哉。
全上

此地韶光冠 帝京。臥龍梅即是魁英。如斯勝景真無對。願任此中過一生。
全上

香を花に梅の香り
武末引よきけり梅の花
梅の香下ふらぬきき層家うさ
林咲やうつゝ人のけり
全上
全上
全上
全上

雪逕獨忘回。暗香去又來。春風呼不起。三顧臥龍梅。
全 渡邊三舟

閑く松をくまうあり 臥龍梅 全
ふよ香の位ふあや 臥龍梅 全上
望遠し梅や 考も地と遠くあり 臥龍梅 全

新詠のそをわく

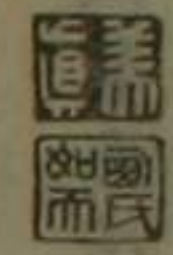
てかり 臥龍梅 編者
香のそをわく 梅の老木や

回首三冬幾苦辛。依然清操保天真。毫無積雪嚴霜犯。更有冰肌玉骨新。浮動暗香澄月夕。橫斜疎影赫曦展。文人三顧如昭烈。龍臥白雲龜井春。
編者

雪虐風饕幾苦辛。南枝綻處見天真。百花如弟避三舍。一樹似兄魁九春。鐵骨苔衣高守節。冰肌玉臉豈含塵。臥龍梅下繫車馬。誰是當時蜀主人。
全上

雪虐の 淫む梅の 白きつゆ 全上

雲遊巫峽夢，爲閉景陽妝。
青浦生真寫



淺草公園牡丹

一枝傾國糝，朝露凝香湛。
嬌態壓群芳，
婷々恍玉檻。
東京 榎村福山

豪華京洛錦成叢，傾國傾城語
不空。全世界開妍日下，玉樓
臺現彩雲中。誰飲才士三
章麗，我認佳人一捻紅。
歌酒延賓留賞久，剩
看膩體月波融。
東京 大沼枕山



避他桃李謾侵尋。一種遲開倚葉陰。
乍見東門芳譽重。寧辭北海酒杯深。
誰將富貴千堆錦。枉喚平常百兩金。
仙子真妃名自好。花王表號本無心。
送斷春華春未殘。花前重得補餘歡。
穠姿貴彩滿園盛。爲忘吟翁吟骨寒。
姚黃魏紫媚斜暉。百卉叢中自拔群。
不怪名花易凋落。由來富貴似浮雲。

日めさして高はく物牡丹ト 全 青宣
藤子トとありてめで牡丹ト 全 藤香
梅子トとありてめで牡丹ト 全 藤外
花トとありてめで牡丹ト 全 全羅
晚鐘トとありてめで牡丹ト 全 千畝
氣トとありてめで牡丹ト 全 桂花
暖湯トとありてめで牡丹ト 全 指直
書トとありてめで牡丹ト 全 聖兮
就トとありてめで牡丹ト 全 愛海

浅草の名よ
大和ふたむらり牡丹ト 全 五葉亭全
子トとありてめで牡丹ト 全 稻雄
一編のありてめで牡丹ト 全 全上
玉の威トとありてめで牡丹ト 全 梅宿
日本伸びてめで牡丹ト 全 山崎瓶川
蒼らら梅トとありてめで牡丹ト 全 水原

水原史郎

相香小四らりとも牡丹ト 全 宇山
尊ふたむら連た産産の牡丹ト 全 成雅
四阿ふまひく産のありてめで牡丹ト 全 藤松
白者支紅々壓紫。榮華繁葉世移過。
沈香春色君休説。淺草園中富貴多。

艶然帶露後園香。蛺蝶輕飛白日長。
紅態繡葩誰競美。牡丹應是百花王。
東京 林 淡處

沙堂の
提申けハ人ハ片案うる牡丹ト 編者
傾けハ案案ははる牡丹ト 全上
物トとありてめで牡丹ト 全上
眼トとありてめで牡丹ト 全上
地トとありてめで牡丹ト 全上

千金價重幾奇葩。
宛似紅職射翠霞。今古滔滔
嘉富貴人
間誰不
愛斯
花
盆大驚成幾牡丹。園中灼々美姿擗。
花王富貴壓他卉。千紫萬紅何足觀。
全上
全上

日枝神社

星岡罩烟霏。日社帶流霞。
神澤遍街市。鎮安百萬家。
東京 福田鳴鶯

星ヶ丘

夕へ小

くらま

栢より

るゆ

そかり

高そ

平ろ

五本

川寄千虎



芳谷 圖

下巻

十六

高輪

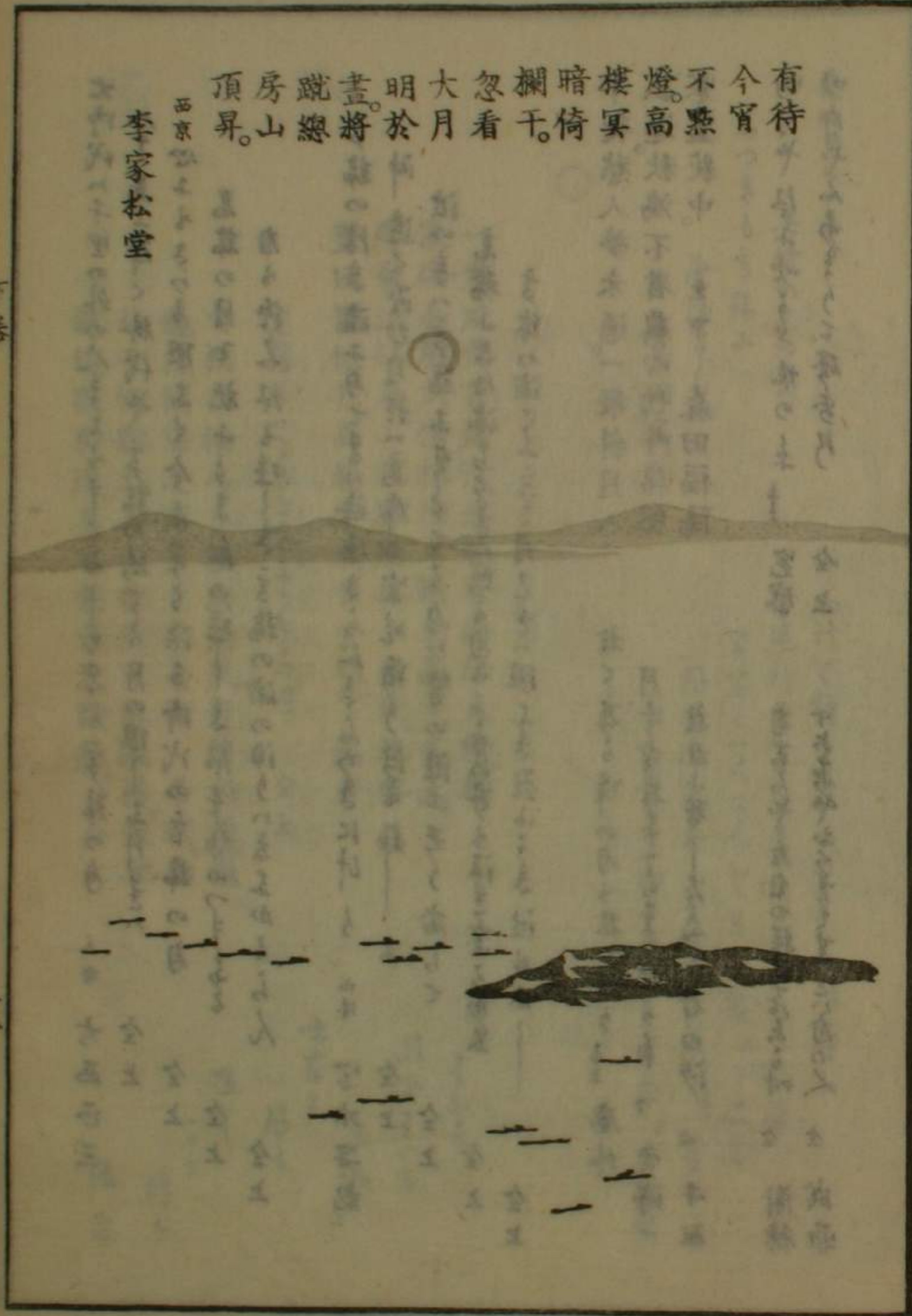
字仙
李仙

三知
一何と
昔小
望のせ
まこと
言
稀の
行小
中
秋の夜
の月
手系
依藤
謙



有
待
今宵
不照
燈高
樓冥
暗倚
欄干
忽看
大月
明於
盡將
蹠總
房山
頂昇

西京
李家松堂



大竹代ハ千里の外の人...
 八十島...
 心も...
 高橋の月...
 月も...
 全上

言編の清き...
 沖...
 波...
 高橋...
 言編...
 全上

半夜愁人夢未通。一痕斜月入
 孤蓬。秋鴻不省羈心切。呼侶聲
 寒蘆秋中。 東京 森田福陽
 明月や...
 全上

夏の目もてや

夏竹の...
 あつきも...
 海...
 島田...
 作...
 全上

一灣風景有餘清。遠眺不論陰又晴。横
 浪砲臺嚴武備。捲煙車轍表昇平。水天
 髣髴連仙島。山色朦朧接帝城。地勢
 盤回圓似月。高輪宇義自分明。 編者

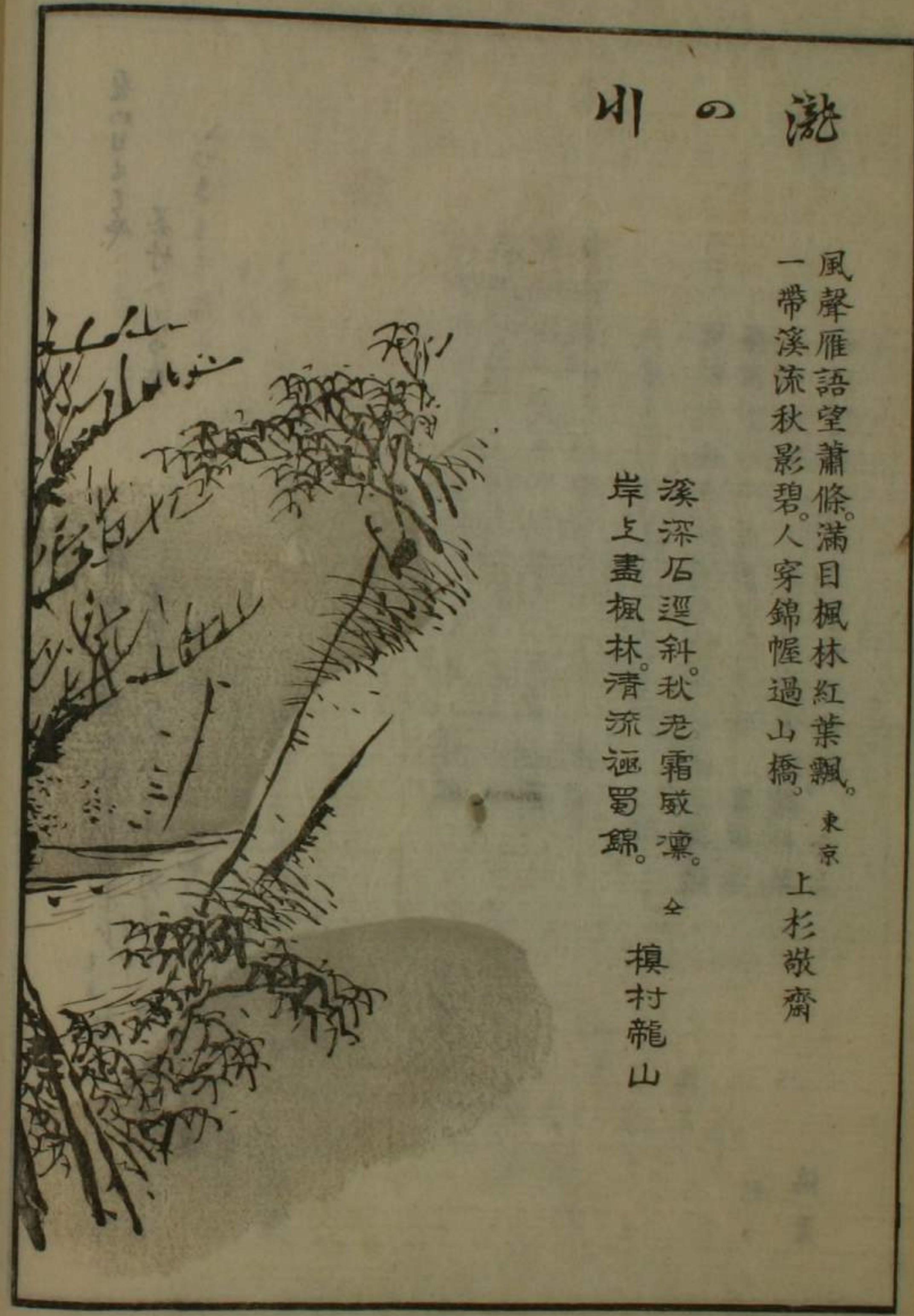
曳杖高輪半日程。雨餘風靜碧衫輕。龜
 龜樓閣聳芝海。累々砲臺衛帝城。南
 北千帆船出入。水雲萬里浪縱橫。飛馳
 鐵道雖神速。不肯乘車故緩行。 全上

夏...
 月...
 全上

川の瀧

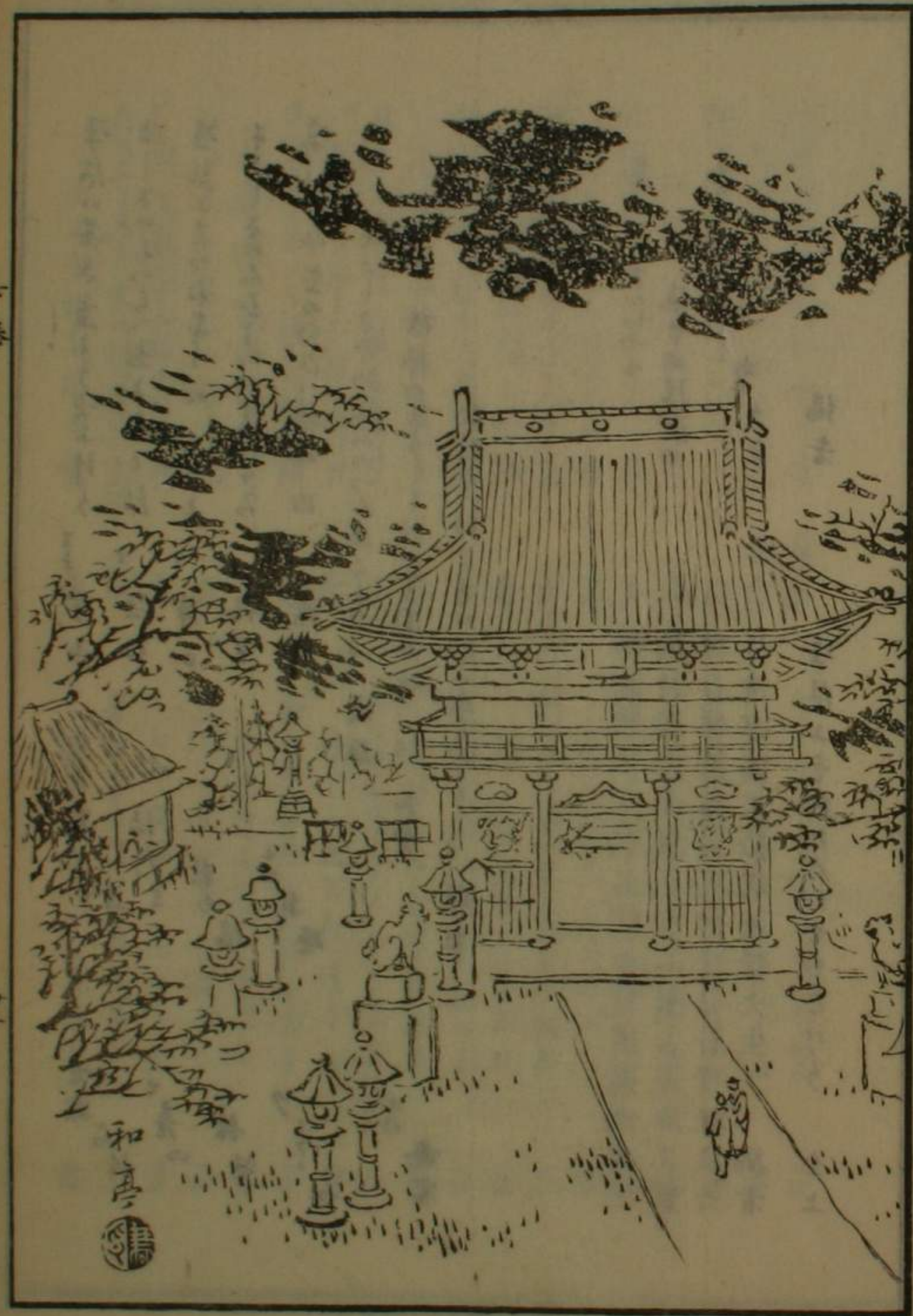
風聲雁語望蕭條。滿目楓林紅葉飄。
 一帶溪流秋影碧。人穿錦幄過山橋。
 東京 上杉敬齋

溪深石逕斜。秋老霜威凜。
 岸上盡楓林。清流涵蜀錦。
 全 棟村龍山



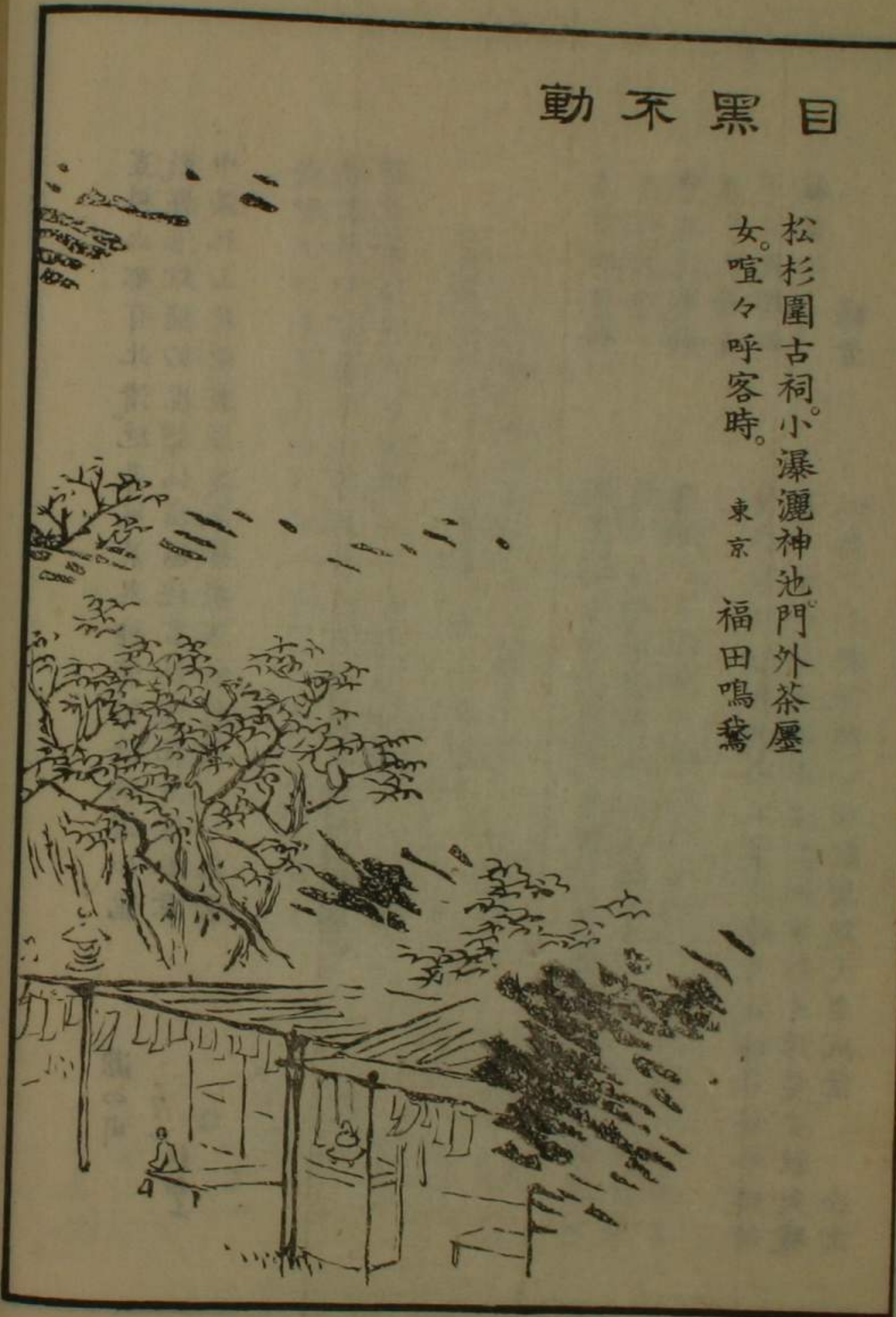
瀧
 楓林
 花跡廿史

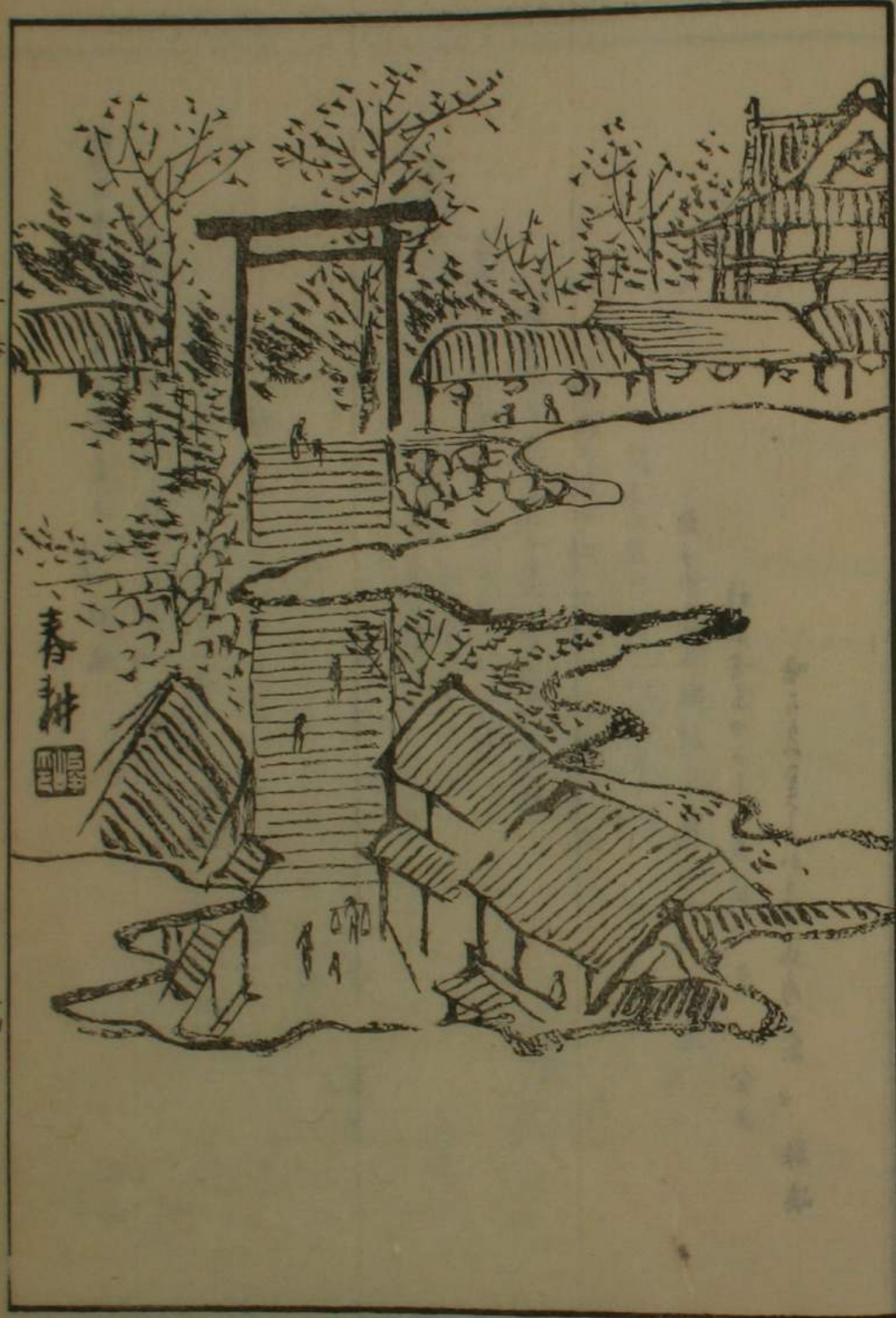
楓林
 花跡廿史
 瀧
 楓林
 花跡廿史



目黒不動

松杉園古祠。小瀑瀧神池。門外茶屋
 女。喧々呼客時。
 東京 福田鳴鶯

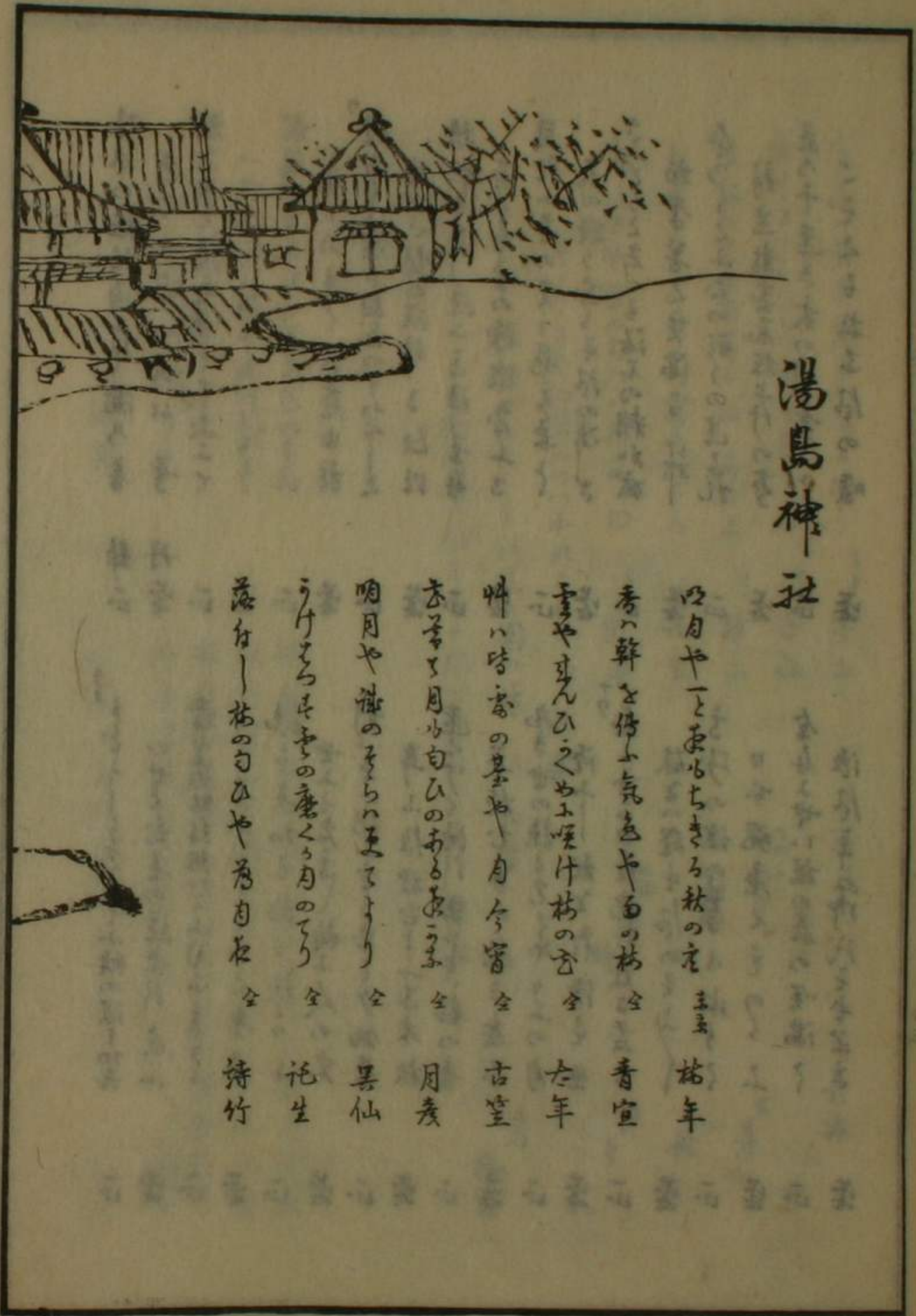




下巻

春耕


廿四



湯島神社

四月や丁酉もたまはる秋の夜 三三 枯年
 香の群を傳ふ気色や白の松 全 香宜
 雪や見んひ之也よ咲け梅の花 全 古年
 峠ハ時客の星や 月今宵 全 古堂
 去きて月も白ひのちもあまふ 全 月彦
 明月や誰のそらへまてより 全 異仙
 うけとらそそぎの塵くさ月のてり 全 託生
 落付し松の白ひや為月夜 全 待竹

秋の月あり小窓をあけしあり 三木 松嶋

林小月苑射ふ入りし思ひうな 全 聖今

青袖のまじりきや林の香 全 梅園

野つくと元の音さよ風の月 全 蓋城

林の香の月原うらそそ夕まは 全 聴松

ふる秋の夜より志く林の香 全上

名月やいつの宵ふせり香の庭 石末 箱座

またまといふい時たり月を友 大坂 深美

秋風小香の庭うらや林の香 全 南麩

海近きねや田みしけふの月 山本 瓶川

林の香の抱えぬ岩石や林の香 全上

相子の香も淡けり林の香 全 経次

昨ん先ふさるるき林の香 全上

晴うりいさきとこまきや月の家 全 梅峽

松嶋

やかて

晴ぬる

大室

けき

月と乙

編者

管神盛徳口碑垂

祠畔眺望尤絶奇

積羽沈舟豈無懼

聚蚊刺骨復堪悲

誠忠照道何千歳

姦惡敵君唯一時

營築再成湯島上

靈光赫々映朝曦

編者

松嶋

秀子

ゆき

林の香

編者

玉つむ

秋の香

月の香

全上

全上

京洛管祠存四方。就中此地最繁昌。延長境潤天神
巷。巍邇堂高湯島岡。威福千秋加鎮護。雲波萬里擅
瞻望。秀才非有吞冤枉。何必至今傳德光。 全上

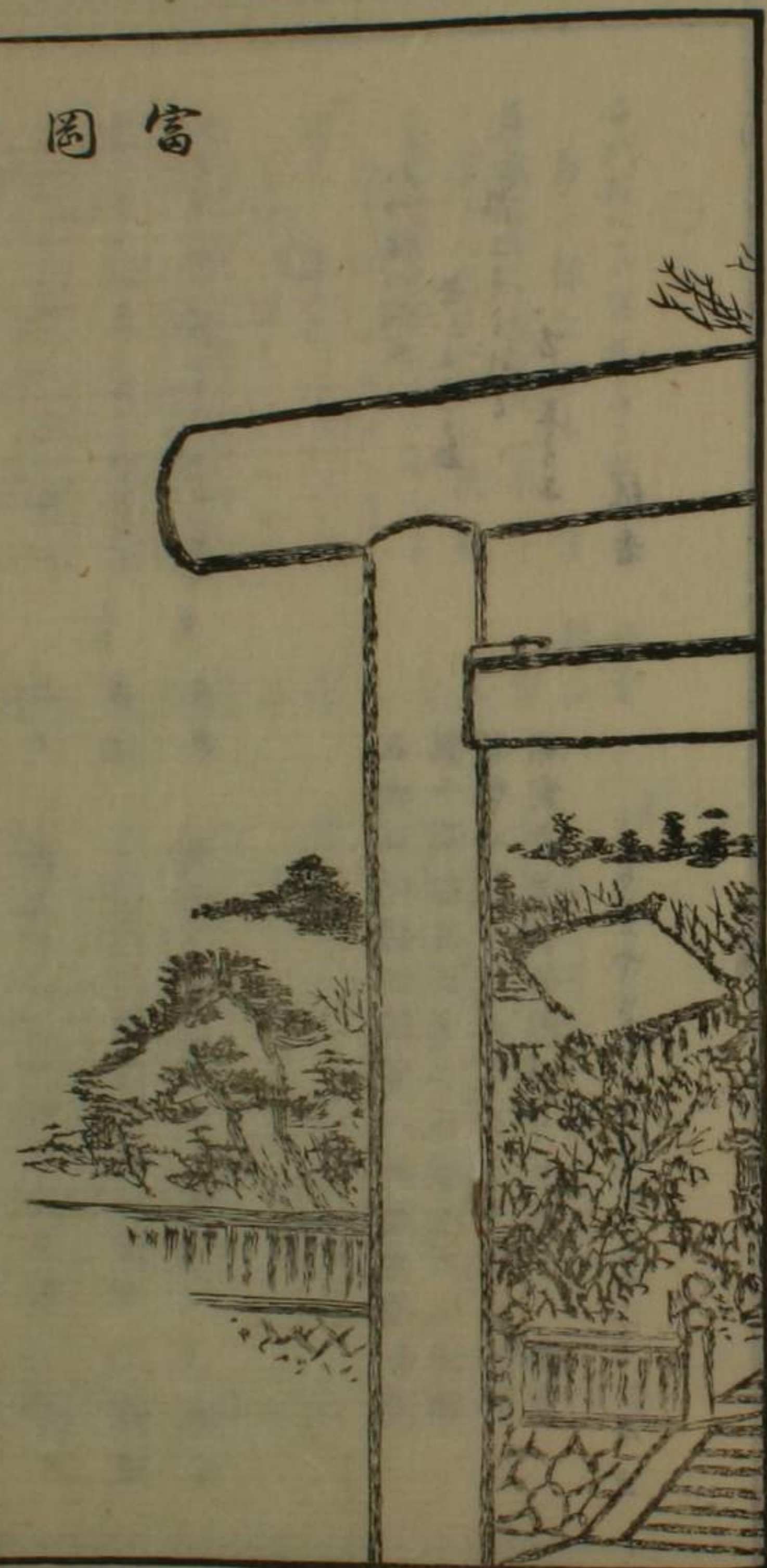
富岡神社

春雨霏々人立花。滿身香滴透吟衣。
賞心不飽天將暮。醉裏尋詩步々斜。

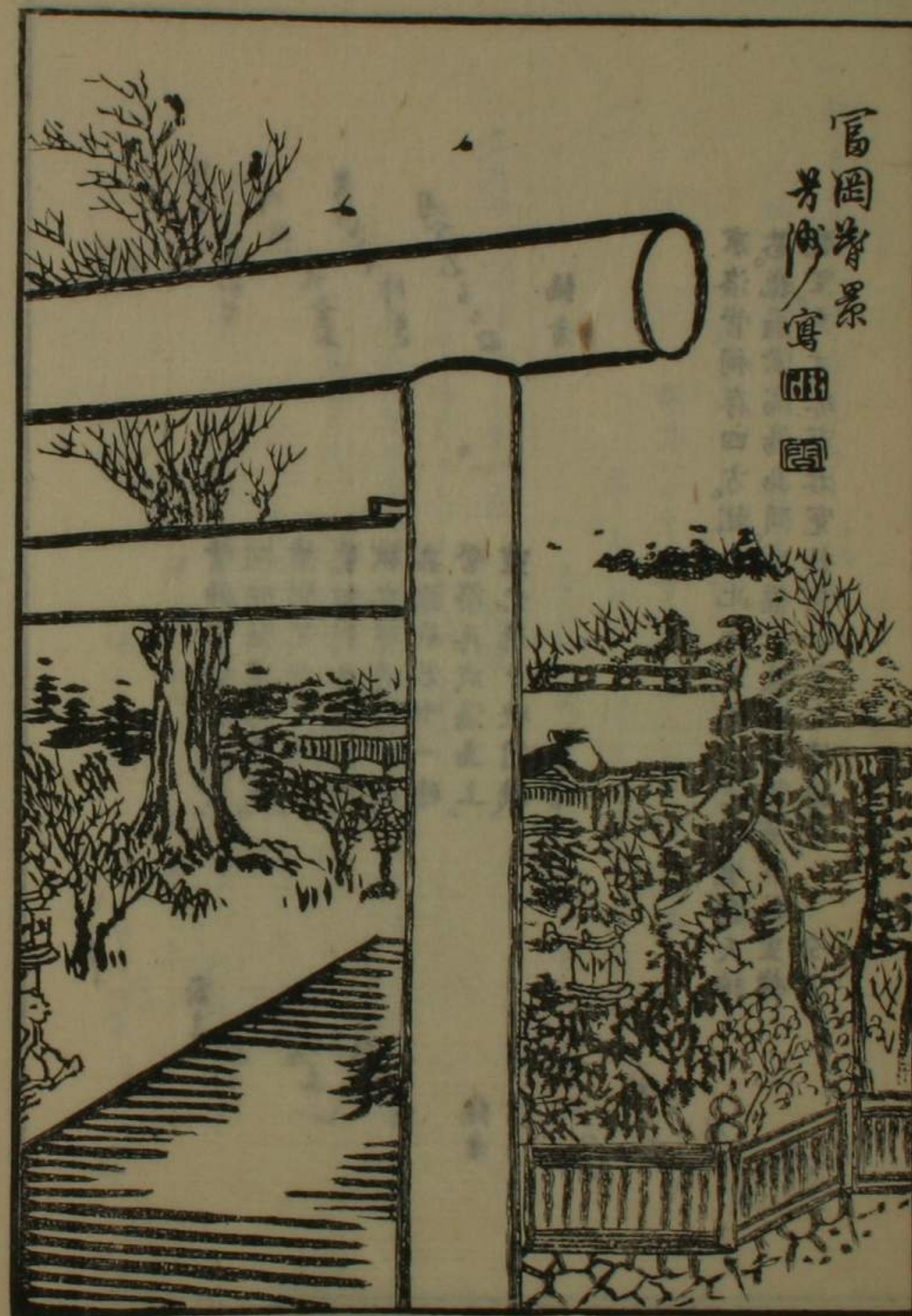
東京 上杉敬齋

下卷

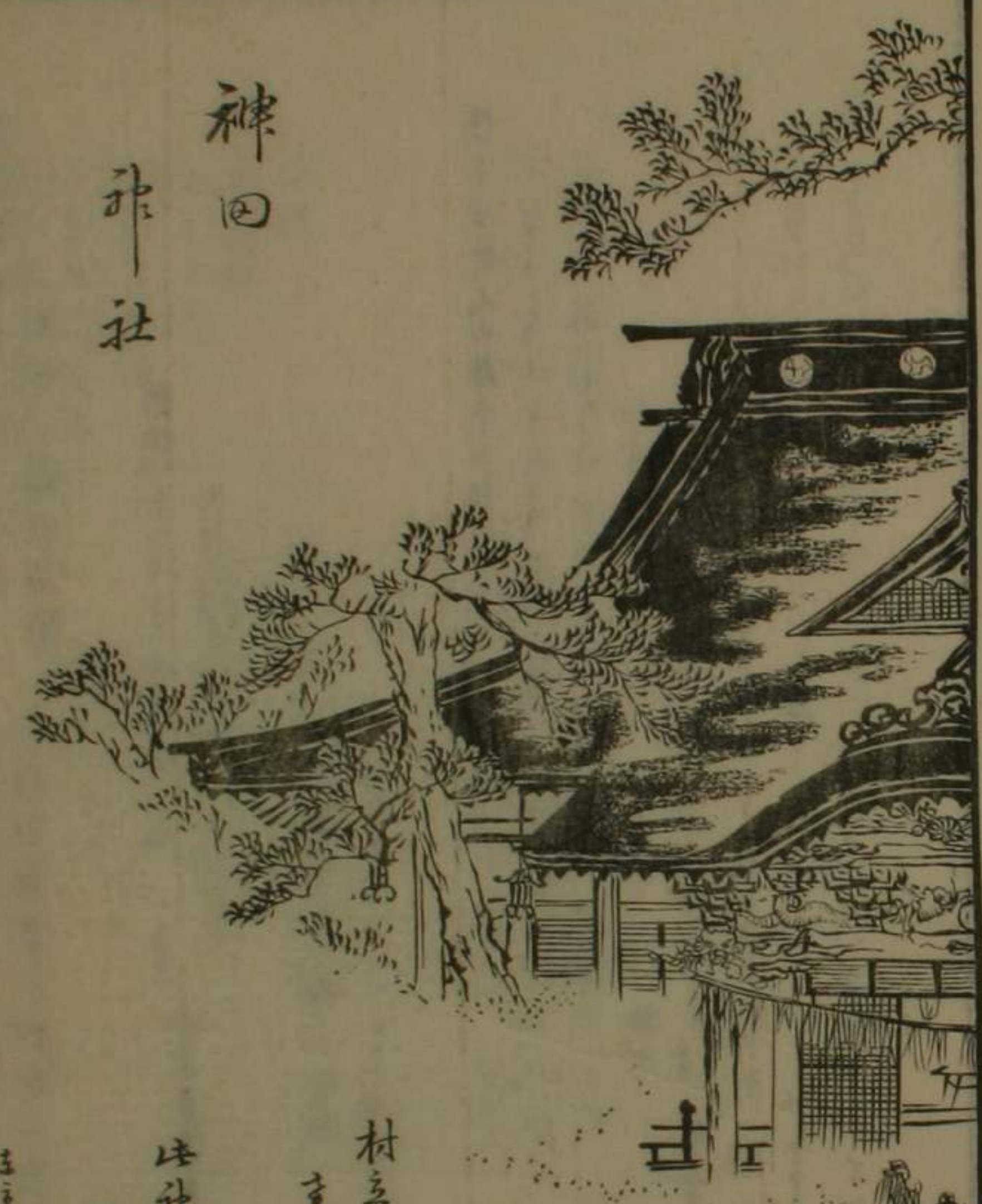
廿六



富岡神社
芳洲寫



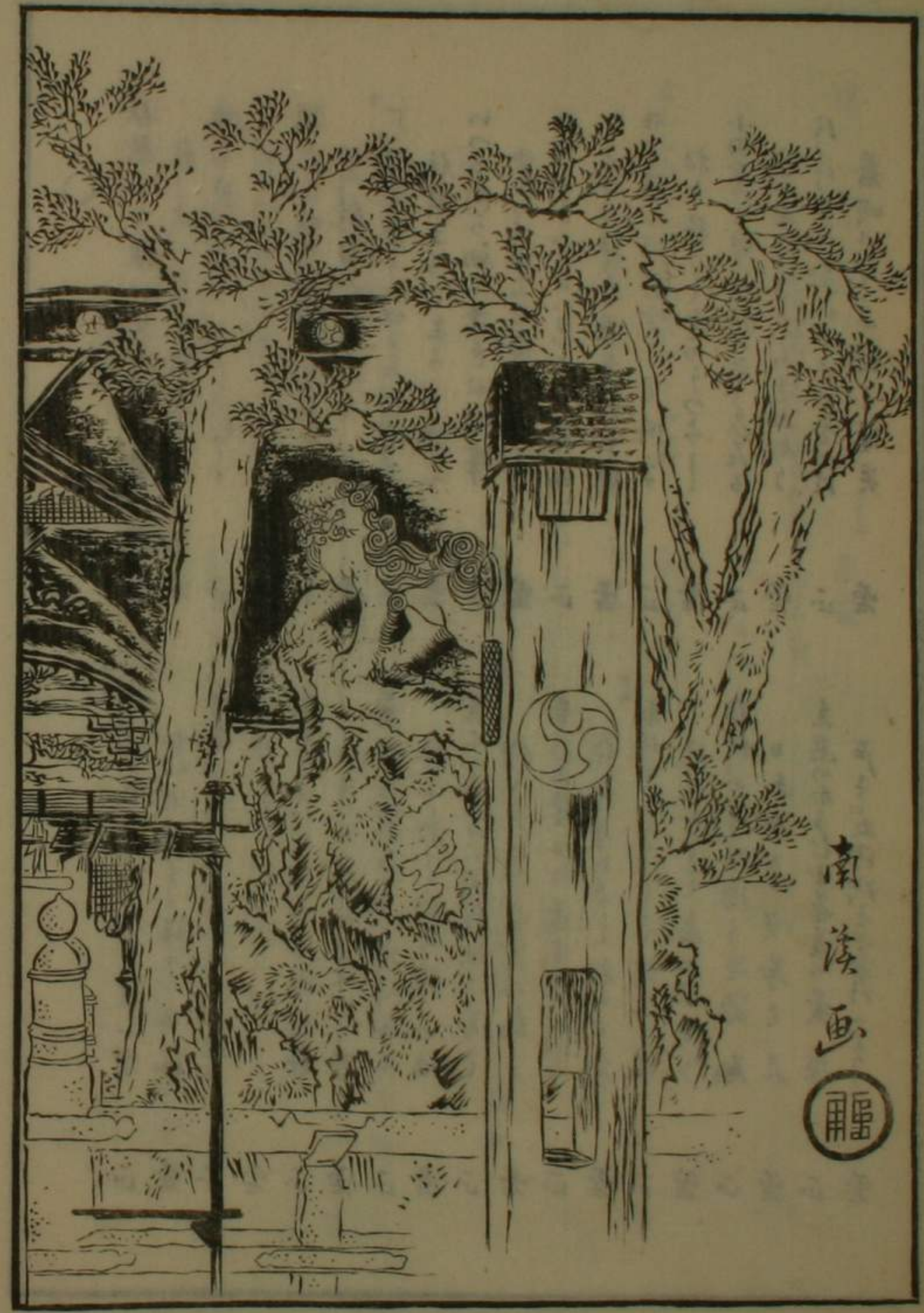
神田
非社



村立能木向
 幸なるに
 茂をいさる
 此非うたの
 月のうき
 三本
 慈光寺有仲

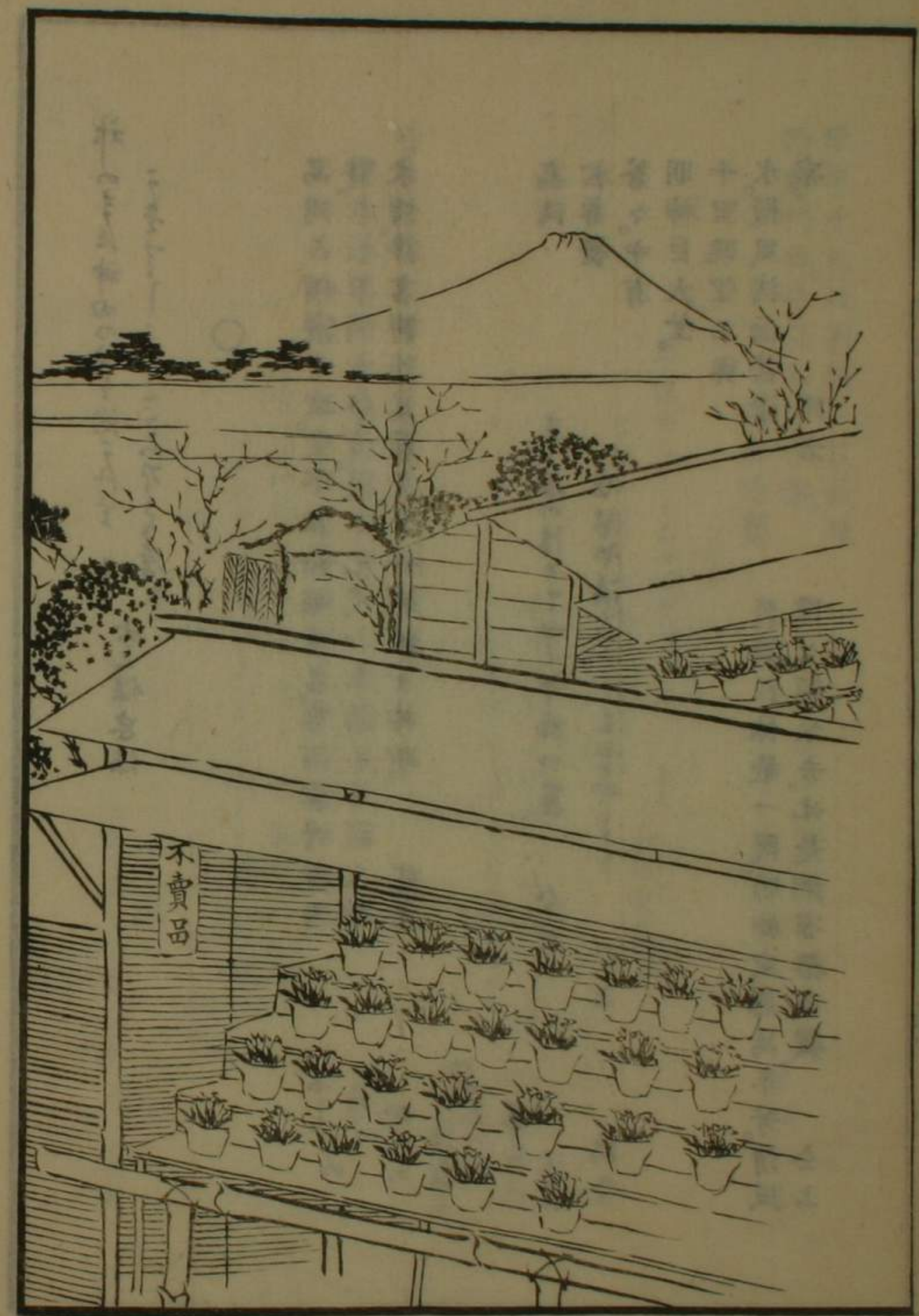
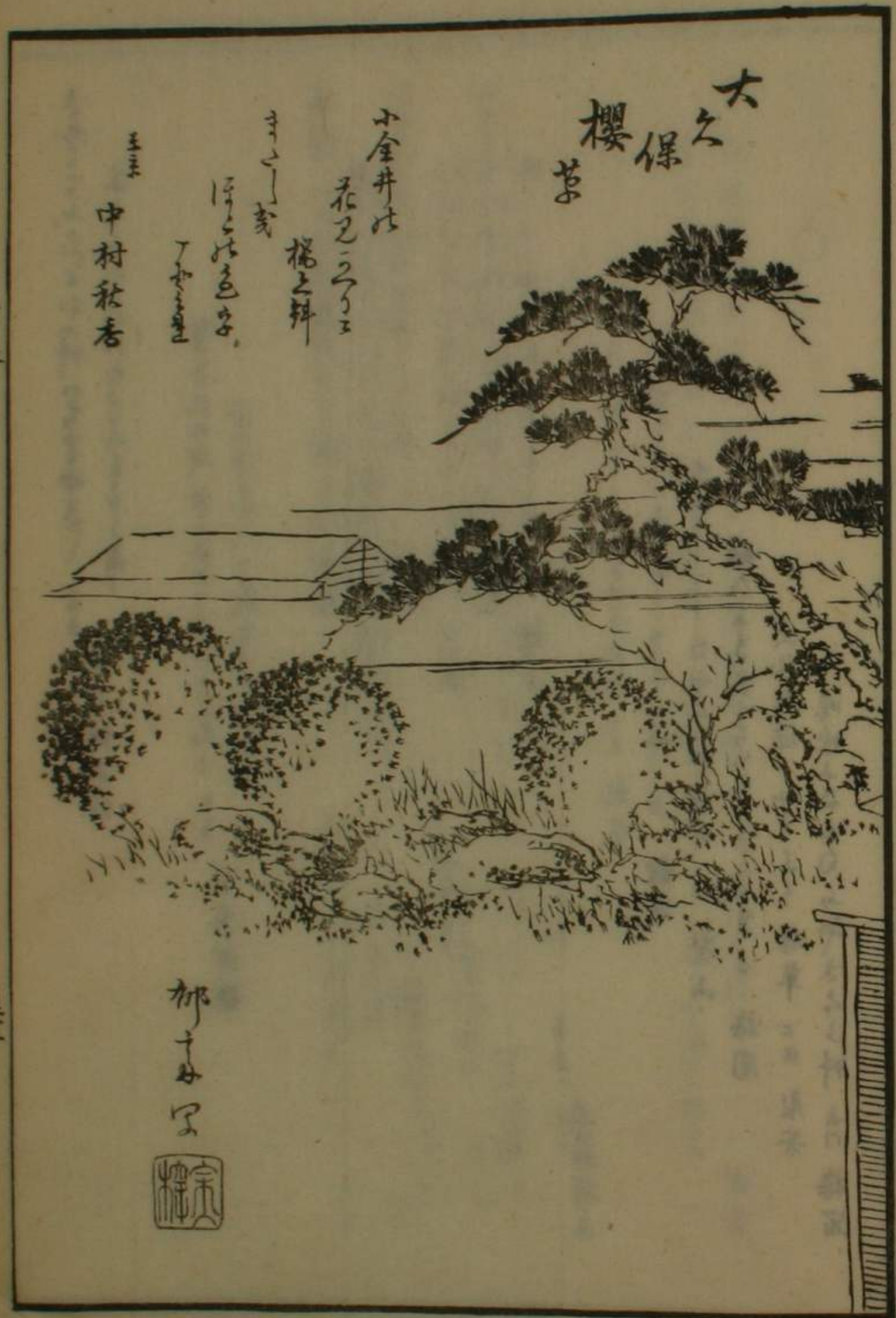
下卷

三十



南漢画
 (Seal)

(Red Seal)



下卷

三十一

まがらうてふくをいふ州のちりゆきし
木も名の花はかたのちりゆきし

まがらうてふくをいふ州のちりゆきし
木も名の花はかたのちりゆきし
近藤幸殖

湯師りのぬま松やささぎ
長うたぬものとして出り松葉 全 本年

子るふてお香煙ぬささぎ草 全 尋香
是ふささぎふんぬりやささぎ草 全 月夜
あやまゆる子るふささぎや松葉 全 古堂
活らるる松葉ふんぬらささぎ草 全 静正

まがらうてふくをいふ州のちりゆきし
木も名の花はかたのちりゆきし

ちんまりうとーたぼりや松葉 全 楚山
類ひふささぎふんぬらささぎ草 全 梅園
支那形澤のやうあり松葉と松葉 全 聚芳
味陸ふささぎふんぬらささぎ草 全 梅窟

棚頭燦爛聚春光。紅白争開引興長。具備
真成櫻一體。呼為草裏小花王。 編者

松てふふ名をいふ草の松くふ
色を年一ふ大なる松の里 全上

碎雪飄霞異草花。百餘珍種競春華。園翁
自說栽培績。四十年來精力加。 全上

滿欄花草燦然新。幾種如櫻媚麗春。縱覽
開門不求價。便知園主亦奇人。 全上

まがらうてふくをいふ州のちりゆきし
木も名の花はかたのちりゆきし
あとの備や松葉 編者

小事初 一欄か

呼左 春や

松 編者 全上

東京名勝畫詞下卷終

追錄

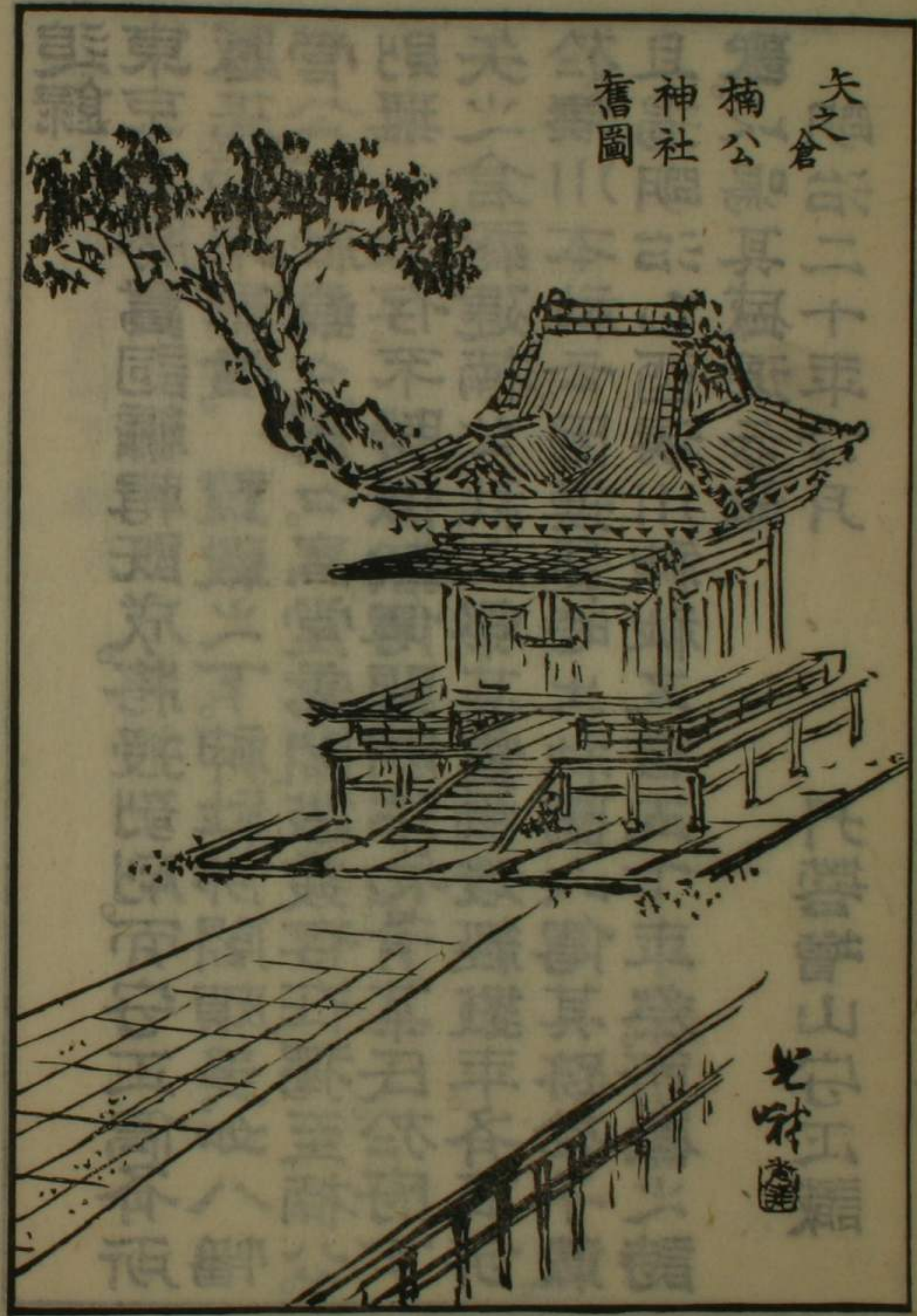
東京名勝畫詞編輯既成。將授剞劂。而守正偶有所感焉。抑東京者。輦轂之下。神社佛閣頗多。如八幡營公兩社。魏々翼翼。高堂雲閣。數處存在。獨至楠公。則無一社存。不勝慨歎。傳聞明治初。有某氏於府下矢之倉。新建楠公社。以祭其靈。爾後經數年。各故併於湊川本社云。因摸曩時土社圖。以傳其跡於千載。且揭明治乙酉。湊川神社五百五十車祭所獻之詩歌。以鳴其盛。禮示爾。

明治二十六年六月

丹莚增山守正識

○明治十八年。楠公五百五十年祭典之際。獻詩歌如左。

人踰崎嶇而後知其健。刀斧遇蟠根錯節而後知其銳。余
 於楠公觀之矣。抑楠公之處世。天資篤實。學術深厚。身抱
 不世之才。智謀欺孫吳。忠誠泣鬼神。然沐雨未嘗違安
 之心。朝家常先天下之憂。拮据黽勉。櫛風沐雨。以失必
 勝之機。於是楠公知其不可為。期死而後。遂以身殉。節何
 大敵奮進無前。正氣凜然貫天地。與日月爭光。嗚呼。楠公
 忠乎。何其勇乎。正氣凜然貫天地。與日月爭光。嗚呼。楠公
 以前無楠公。楠公以後無楠公。實使天下後世頌之。人
 感奮興起者。皆由楠公之德義也。天皇嘉賞其盛德。忠
 義厚。追贈爵位。而今正當五百五十年祭典。余不堪欽
 慕之至。謹獻詩歌。以慰其神靈云。



矢倉
楠公
神社
舊圖

光緒

日月葆光天地冥，奮興誰復守常經。勤王三世心腸赤，獻策數條名姓馨。
縱有東魚躍西海，更無北虜入南庭。悽然想起當年事，淒水悲寒草木腥。
奈何元帥溺佳姬，忠死自盟辭闕時。三略六韜全節義，五畿七道植綱維。
廉脣立千秋鏡，虎奮龍興百世師。丹淚灑來櫻井驛，更令兒子護皇基。
龍騰虎蹲悉神奇，況是忠誠世所師。反賊中原爭鹿日，英雄西海濕衣時。
赤城守義拋身命，櫻驛忘私訣愛兒。臨死一言長不朽，七生心血護皇基。
南枝入夢，獻憂伸。一木尚存支九旻，訣子離妻本。王事成仁取義是天
真，幾篇韜略驚胡膽，闔族綱常泣鬼神。高節巍然如富嶽，乾坤誰有比肩人。
欲護金甌地，此生貫天忠烈至今明。龐涓投策避三舍，仲達捲旗逃數程。
淒水何支兵寡少，金峰既破敵縱橫。誰知熱血淋漓底，永使英名萬載轟。
天爲南朝生爪牙，東征北戰護邦家。清光尚見湊川月，秀影誰知赤霞。
擊賊千謀胸有算，勤王一氣思無邪。苦忠櫻井驛途淚，散作芳山馥郁花。
一身千歲是干城，高節超然天地明。容士仁慈奴婢慕，用兵機變鬼神驚。
捨生酬主湊川役，期死訣兒櫻驛情。縱有山崩河海涸，長留竹帛表忠誠。
天步艱難海島間，英雄蹶起幾河山。官軍似電交明滅，反賊如蠅恣往還。
攻

伐無違風月樂，誠忠不管利名關。朝廷嘉賞賜高位，想見黃泉莞爾顏。
大魚無處不揚瀾，獨有此公碎肺肝。自古忠謀匹儔少，至今高節史篇寒。
訣兒情勝孔明表，決死何輸龐德棺。積善終看餘慶事，千秋遺烈仰神壇。
用兵自在敵縱橫，凜凜長存節操清。魚水君臣遭遇意，死生親子別離情。
當年世態乾坤暗，絕代忠誠日月明。菊水餘香流不盡，千秋馥郁擅芳名。
楠公節義鬼神驚，暴骨疆場表至誠。富貴不求來富貴，功名無意得功名。
當時感泣英雄淚，千歲奮興頑憤情。回首乾坤存定理，忠邪善惡自分明。
妖氛無處不揚塵，明成獨有楠公擁。紫宸赤阪雄風明月夕，湊川斜雨落花晨。破堅衝銳強驚鬼，應變臨機妙入神。
世上滔滔名利外，乾坤有個大忠臣。用法如神正又奇，楠公偉績口碑垂。
慨然先事獻謀日，徒爾失機違戰時。烏蹴東天妖霧破，魚跳西海暴風吹。
訓兒櫻驛別離淚，散作忠臣萬世基。誰復奮然當國難，脣頑千載肺肝寒。
一絲縱有牽枯木，隻手何能回倒瀾。義重命輕兵庫驛，節高名潔爪牙官。
豈唯忠烈死而止，三世永傳心血丹。乾坤反覆亂如麻，死命拋來湊水涯。
討賊都無良將士，勤王唯一楠家。全身頃刻縱爲露，史筆千春尚結花。
日月猶懸碧霄上，此公高節絕微瑕。

海陸攻來百萬兵。衝天賊勢亂縱橫。終無一士逃營去。更有千旗壓地迎。櫻
 驛生離父子淚。湊川死別君臣情。英雄氣魄留斯土。日夜風濤捲怒聲。
 六韜三略妙機深。想起楠公酬國心。我士爭鋒如手足。賊軍陷計似飛禽。殉
 君貞節驚倭漢。訣子忠言泣古今。時去時來風物異。千秋不死一丹心。
 空前絕後大英雄。九鼎護來兵亂中。熱血諭兒櫻井月。精鋒破敵湊川風。智
 謀似電神功速。溫厚如春仁德隆。壤土之中何所比。忠誠唯有二管公。
 一時千歲出英雄。君辱邦危累卵中。錯節蟠根知利器。離妻訣子表精忠。寢
 苦枕塊勤王事。沐雨櫛風忘我躬。功烈誰能垂萬古。乾坤只是有楠公。
 六韜三略悉精通。妙算神機苦戰中。競得爭奪彼何者。先憂後樂是斯公。國
 臨興廢情彌迫。身決死生心益雄。千載凜然存義列。乾坤永見一門忠。

大君のちりりか... 楠公の世... 朽せりりりり
 石の上より... 楠公の世... 朽せりりりり
 櫻井の世... 楠公の世... 朽せりりりり

追録終

谷 鎌洲書

明治二十年九月十五日版權免許
 同 年十月 出版

定價金六拾錢

編輯人

增山守正

京都府士族

東京神田區駿河臺袋町七番地寄留

出版人

小林八郎

東京府平民

東京日本橋區通旅籠町十二番地

發兌

東京日本橋區
 通旅籠町十一番地
 栃木縣下宇都宮
 大工町四十一番地
 大阪東區博勞町
 四丁目十五番地

集英堂本店
 全第一支店
 全第二支店

下卷

經書所賣錄

經書所賣錄
一、周易 卷一 乾坤
二、周易 卷二 艮巽
三、周易 卷三 震巽
四、周易 卷四 震巽
五、周易 卷五 震巽
六、周易 卷六 震巽
七、周易 卷七 震巽
八、周易 卷八 震巽
九、周易 卷九 震巽
十、周易 卷十 震巽
十一、周易 卷十一 震巽
十二、周易 卷十二 震巽
十三、周易 卷十三 震巽
十四、周易 卷十四 震巽
十五、周易 卷十五 震巽
十六、周易 卷十六 震巽
十七、周易 卷十七 震巽
十八、周易 卷十八 震巽
十九、周易 卷十九 震巽
二十、周易 卷二十 震巽
二十一、周易 卷二十一 震巽
二十二、周易 卷二十二 震巽
二十三、周易 卷二十三 震巽
二十四、周易 卷二十四 震巽
二十五、周易 卷二十五 震巽
二十六、周易 卷二十六 震巽
二十七、周易 卷二十七 震巽
二十八、周易 卷二十八 震巽
二十九、周易 卷二十九 震巽
三十、周易 卷三十 震巽
三十一、周易 卷三十一 震巽
三十二、周易 卷三十二 震巽
三十三、周易 卷三十三 震巽
三十四、周易 卷三十四 震巽
三十五、周易 卷三十五 震巽
三十六、周易 卷三十六 震巽
三十七、周易 卷三十七 震巽
三十八、周易 卷三十八 震巽
三十九、周易 卷三十九 震巽
四十、周易 卷四十 震巽
四十一、周易 卷四十一 震巽
四十二、周易 卷四十二 震巽
四十三、周易 卷四十三 震巽
四十四、周易 卷四十四 震巽
四十五、周易 卷四十五 震巽
四十六、周易 卷四十六 震巽
四十七、周易 卷四十七 震巽
四十八、周易 卷四十八 震巽
四十九、周易 卷四十九 震巽
五十、周易 卷五十 震巽
五十一、周易 卷五十一 震巽
五十二、周易 卷五十二 震巽
五十三、周易 卷五十三 震巽
五十四、周易 卷五十四 震巽
五十五、周易 卷五十五 震巽
五十六、周易 卷五十六 震巽
五十七、周易 卷五十七 震巽
五十八、周易 卷五十八 震巽
五十九、周易 卷五十九 震巽
六十、周易 卷六十 震巽
六十一、周易 卷六十一 震巽
六十二、周易 卷六十二 震巽
六十三、周易 卷六十三 震巽
六十四、周易 卷六十四 震巽
六十五、周易 卷六十五 震巽
六十六、周易 卷六十六 震巽
六十七、周易 卷六十七 震巽
六十八、周易 卷六十八 震巽
六十九、周易 卷六十九 震巽
七十、周易 卷七十 震巽
七十一、周易 卷七十一 震巽
七十二、周易 卷七十二 震巽
七十三、周易 卷七十三 震巽
七十四、周易 卷七十四 震巽
七十五、周易 卷七十五 震巽
七十六、周易 卷七十六 震巽
七十七、周易 卷七十七 震巽
七十八、周易 卷七十八 震巽
七十九、周易 卷七十九 震巽
八十、周易 卷八十 震巽
八十一、周易 卷八十一 震巽
八十二、周易 卷八十二 震巽
八十三、周易 卷八十三 震巽
八十四、周易 卷八十四 震巽
八十五、周易 卷八十五 震巽
八十六、周易 卷八十六 震巽
八十七、周易 卷八十七 震巽
八十八、周易 卷八十八 震巽
八十九、周易 卷八十九 震巽
九十、周易 卷九十 震巽
九十一、周易 卷九十一 震巽
九十二、周易 卷九十二 震巽
九十三、周易 卷九十三 震巽
九十四、周易 卷九十四 震巽
九十五、周易 卷九十五 震巽
九十六、周易 卷九十六 震巽
九十七、周易 卷九十七 震巽
九十八、周易 卷九十八 震巽
九十九、周易 卷九十九 震巽
一百、周易 卷一百 震巽

